

心豊かでたくましい児童生徒を育て  
小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば

Vol. ⑬

# 小中一貫校新校舎が完成

昨年の7月以来、三戸小学校の校舎に接続して建設を進めてきた小中一貫校新校舎が3月25日に完成しました。

この校舎は、三戸中学校の校舎が建物の老朽度を判定する耐力度調査を行った結果、危険校舎と判定されたことから、三戸中学校の新校舎として建設したものです。

新校舎には、8・9年生(中学校2・3年生)の普通教室、理科室(3室)、保健室(2室)、調理室、被服室、美術室、音楽室(2室)、異年齢交流ホールなどが設けられています。

## 新校舎の特徴

新校舎は、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう耐震強度を通常の1・25倍とし、

地域の防災拠点、避難場所としての役割にも配慮した造りになっています。

また、異年齢交流を促進する交流スペースとして、小学校校舎との間に異年齢交流ホールや学習センターを設け、複数の学年が一緒に給食を食べることができる明るい環境の多目的ルームも設けています。校舎の屋根には、太陽光発電設備を設け、環境教育や省エネルギーにも配慮しています。

## 三戸小学校改修工事の概要

平成25年4月からの校舎一体型小中一貫教育学校の開設にむけて、平成24年度は、三戸小学校校舎・体育館の全面的な改修工事を行います。改修工事の内容は次のとおりとなっています。

工事期間中は、工事車両の増加等により、保護者や近隣の皆さまには、ご不便ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

### ○主な工事内容

- ・職員室増築
- ・特別支援教室増築

- ・屋根、壁再塗装
- ・床張り替え、研磨再塗装
- ・窓ペアガラス化
- ・エレベーター設置
- ・暖房設備更新
- ・放送設備更新
- ・防災設備更新



多目的ルーム



南側からの外観



調理実習室



2階廊下

## 高等学校から見る 小中一貫教育

中学校卒業後の主な進路先である高等学校から見た小中一貫教育について、県立三戸高等学校の木村和典校長先生にお話を伺いました。

三戸町が進める小中一貫教育について、どのような感想をお持ちですか？

前任校の田名部高校があるむつ市では、全ての小中学校で小中一貫教育が行われています。また、田名部高校では県の指定を受けて小中高12年間を見通した校種間連携事業を行いました。これらの経験から見えたものは、異校種（異年齢）の交流・連携により、上の子は下の子に対する思いやりの心が育まれ、自己肯定感・自己有用感が高まったこと、下の子は上の子に対し憧れを抱くようになったことが挙げられます。

小学校で学ぶべきことを学ばせて中学校に送る従来型の義務教育は、人間関係を含めた環境を一旦リセットできるといいます。

リットはあるかもしれませんが、逆に中1ギャップという大きな課題を抱えました。

三戸町では小学校と中学校の教員が相互に議論する場が多く設定されています。こういった積み重ねが長い目で子どもを育むことにつながり、中1ギャップを解消し、より良い子どもの成長につながるものと期待しています。

三戸町の小中一貫教育は義務教育の6・3制を4（初等部）・3（中等部）・2（高等部）に区分しますが、この区分についてはどのようにお考えですか？

小学6年生と中学1年生の間の段差が大きいことで中1ギャップが生じるのであれば、子どもの成長（発達段階）に応じて、より細かく目標設定ができることは非常に効果的だと思います。文部科学省では校種ごとに教えるべき内容を学習指導要領として定めているため、通常そのまま高校の授業に入りますが、三戸高校では新入生に対して中学校既習の基礎基本を整理、確認、復習しながら高校の学習に入っています。現在の6・3制

の義務教育では、中学校1年の段階で、同じように小学校の学習内容を復習する時間が設けられていないかと思えます。

小中一貫教育では、小学校と中学校の教員が、相互に学習内容や進度を把握することで、この重複する時間を省き、新しい教育内容にスムーズに移行することが可能になります。

また、多くの中学生は3年生になって初めて自分の進路と向き合いますが、中等部から高等部に区切りを設けたことで、2年間かけて卒業後の進路と向き合うことが可能になります。これは非常に大きなメリットです。

最後にひと言お願いします。

近年、求人動向は大卒にシフトしているため、高校生の就職環境は極めて厳しい状態にあります。また、中学生も大学進学を意識していて、これに対応できる高校を希望しているように思えます。

現在、三戸高校も大学進学に力を入れており、今年度は国立大学に13名が進学するなど、短期大学を含めた進学率は約4割に達しています。また、厳しい

就職環境にありながら、多くの高校生が望む金融機関や大手スーパーマーケットなどに、高い競争倍率を乗り越えて合格を果たしています。

少人数指導や徹底した個別指導を行っていること、中学校の復習もしながら学力向上を図っていることが、これまで以上に進学や就職などの進路達成を可能にしているのだと思います。

この連載を読むと分かるように、三戸町では小中一貫教育だけではなく、その接続部分である幼小連携や中高連携も視野に入れた取り組みを行っています。三戸高校も通学時間が短いという地元の利点を生かしながら、「地域の子どもは地域で育てる」を信念にこれまで以上に校種間の連携に力を入れ、小中学生にとって憧れのお兄さんお姉さんになれるよう、努めてまいります。



三戸高等学校  
木村和典校長